

2018. 6

(主な内容)

- 「第26回人気スポーツ調査」
結果の概要～これまでの調査結果を
振り返りつつ～ 1
- 告知板..... 10

中央調査報

「第26回 人気スポーツ調査」結果の概要 ～これまでの調査結果を振り返りつつ～

一般社団法人 中央調査社
調査部 絹川 智史

中央調査社は、4月6日から15日にかけて、「人気スポーツに関する全国意識調査」を実施しました。調査は、無作為に選んだ全国20歳以上の男女個人を対象に個別面接聴取法で行い、1,207人から回答を得ました。中央調査社では同テーマの調査を1993年から毎年行っており、今回で26回目となります。

調査では、①最も好きなスポーツ選手、②好きなプロスポーツ、③好きな現役力士、④1番好きなプロ野球チーム、⑤1番好きなJ1のサッカーチーム—の5項目について毎年聞いていますが、今年はそのに加えて、今年2月の平昌冬季オリンピックで印象に残った競技と今後注目したい競技についても聞きました。

本稿では、第26回調査の結果を紹介するとともに、過去の調査結果もあわせて振り返ります。

1. 最も好きなスポーツ選手

質問：「プロ・アマ、現役・引退、国内・国外を問わず、あなたが好きなスポーツ選手を1人だけ、何の選手かもあわせてあげてください。」(自由回答)

最も好きなスポーツ選手を聞いたところ、今季メジャーリーグへ移籍した後も二刀流選手として投打に活躍を続ける「大谷翔平」が初の1位となった。男性では圧倒的な人気で、女性では2位。年代別では、すべての年代で1位となっている。これまでの調査では、「大谷翔平」は2016年の4位が最高であった。(図表1、図表2)

昨年まで2年連続1位であった「イチロー」は、今年も2位に入った。過去の結果を振り返ると、1995年に初めて1位となって以来、2005年～2013年の9連覇を含めて、実にこれまで14回

も人気1位に選ばれている。特に、メジャーリーグ移籍後の人気は圧倒的で、2001年以降の調査では3位以内から外れたことがない。(図表3)

今年2月の平昌オリンピックで金メダルを獲得した「羽生結弦」が、僅差で3位となった。回答の多くは女性からのものであり、女性に限ってみれば1位である。フィギュアスケートでは、昨年現役を引退した「浅田真央」も女性を中心に根強い人気を保っており、今回も全体で5位にランクインしている。ちなみに、4年前のソチオリンピック後の調査では、「浅田真央」が1位となり、「羽生結弦」は4位であった。

テニスの「錦織圭」は4位。けがのために大会欠場が続いていた影響で、去年の2位から順位は後退したものの、依然として男女を問わず人気がある。

それ以外では、ゴルフの「松山英樹」が7位に入ったことを除いて、ベスト10の残りをすべて

図表1 最も好きなスポーツ選手(上位10位)

			今回(2018年) (n=898)		2017年 (n=918)		2016年 (n=857)		2015年 (n=911)		2014年 (n=883)	
1位	大谷翔平	野球	195人	21.7%	⑥	3.4%	④	3.5%	⑦	2.6%	⑳	0.8%
2位	イチロー	野球	100人	11.1%	①	16.9%	①	22.4%	②	12.8%	②	15.1%
3位	羽生結弦	フィギュアスケート	99人	11.0%	⑤	4.7%	⑥	2.0%	④	4.2%	④	4.3%
4位	錦織圭	テニス	37人	4.1%	②	13.0%	②	16.9%	①	18.4%	①	1.9%
5位	浅田真央	フィギュアスケート	29人	3.2%	③	7.5%	③	5.1%	③	7.7%	⑨	15.7%
6位	長嶋茂雄	野球	26人	2.9%	⑦	3.2%	⑤	3.3%	⑤	3.8%	⑥	3.7%
7位	松山英樹	ゴルフ	16人	1.8%	⑩	1.9%	⑩	1.6%	⑩	1.9%	⑯	1.1%
8位	坂本勇人	野球	12人	1.3%	⑧	2.0%	⑮	0.9%	-	-	-	-
〃	松井秀喜	野球	12人	1.3%	⑫	1.6%	⑬	1.2%	⑪	1.5%	⑩	1.7%
10位	星野仙一	野球	10人	1.1%	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) -は上位21位以下、○数字は順位。

図表2 最も好きなスポーツ選手(男女別、年代別)

▼男女別順位(上位10位)

男性(n=438)			女性(n=460)		
1位	大谷翔平	25.8%	1位	羽生結弦	20.4%
2位	イチロー	13.9%	2位	大谷翔平	17.8%
3位	長嶋茂雄	4.8%	3位	イチロー	8.5%
4位	松山英樹	3.0%	4位	錦織圭	5.7%
5位	錦織圭	2.5%	〃	浅田真央	5.7%
6位	松井秀喜	1.8%	6位	坂本勇人	1.7%
7位	石川遼	1.4%	〃	宇野昌磨	1.7%
〃	村田諒太	1.4%	8位	大塚なおみ	1.5%
〃	本田圭佑	1.4%	9位	星野仙一	1.3%
10位	羽生結弦	1.1%	10位	長嶋茂雄	1.1%
〃	王貞治	1.1%	〃	伊達公子	1.1%
〃	三浦知良	1.1%			

▼年代別順位(上位5位)

20代(n=88)				30代(n=115)				40代(n=173)			
1位	大谷翔平	17人	19.3%	1位	大谷翔平	25人	21.7%	1位	大谷翔平	32人	18.5%
2位	羽生結弦	7人	8.0%	2位	イチロー	21人	18.3%	2位	イチロー	30人	17.3%
〃	錦織圭	7人	8.0%	3位	羽生結弦	9人	7.8%	3位	羽生結弦	16人	9.2%
4位	イチロー	6人	6.8%	4位	浅田真央	4人	3.5%	4位	浅田真央	9人	5.2%
5位	本田圭佑	4人	4.5%	〃	松井秀喜	4人	3.5%	5位	錦織圭	5人	2.9%
50代(n=141)				60代(n=171)				70歳以上(n=210)			
1位	大谷翔平	28人	19.9%	1位	大谷翔平	42人	24.6%	1位	大谷翔平	51人	24.3%
2位	羽生結弦	17人	12.1%	2位	羽生結弦	22人	12.9%	2位	羽生結弦	28人	13.3%
3位	浅田真央	12人	8.5%	3位	イチロー	15人	8.8%	3位	イチロー	19人	9.0%
4位	錦織圭	10人	7.1%	4位	長嶋茂雄	9人	5.3%	4位	長嶋茂雄	14人	6.7%
5位	イチロー	9人	6.4%	5位	錦織圭	7人	4.1%	5位	坂本勇人	7人	3.3%

野球選手が占めている。「長嶋茂雄」が根強い人気で6位。「坂本勇人」と「松井秀喜」が8位。今年1月に亡くなった「星野仙一」が10位にランクインしている。

これまでの25回の調査(第1回調査は該当質問なし)で1位となった選手の顔ぶれをあらためて眺めると、「イチロー」の14回(1996,2001~2002,2005~2013,2016~2017)が最多で、他を寄せ付けない結果となっている。続けて「長嶋茂雄」が5回(1995,1997~2000)、「松井秀喜」が2回(2003~2004)で、今年の「大谷翔平」を合わせると、全25回の調査うち22回を野球選手で占めることとなる。しかし、近年は、2014年にフィギュアスケートの「浅田真央」が、翌2015年にはテニスの「錦織圭」が人気1

位に選ばれるなど、野球選手以外が国民から幅広い人気を集めるケースも見られるようになった。これまで絶対的な人気を誇った「イチロー」が選手としてのプレーを退いた後のランキングの行方が注目される。

2.好きなプロスポーツ

質問:「あなたが好きなプロスポーツを、この中(回答票=(ア)大相撲、(イ)プロ野球、(ウ)プロサッカー、(エ)プロバスケットボール、(オ)プロテニス、(カ)プロゴルフ、(キ)プロレス、(ク)プロボクシング、(ケ)カーレース(F1など))からいくつでもあげてください。」(複数回答)

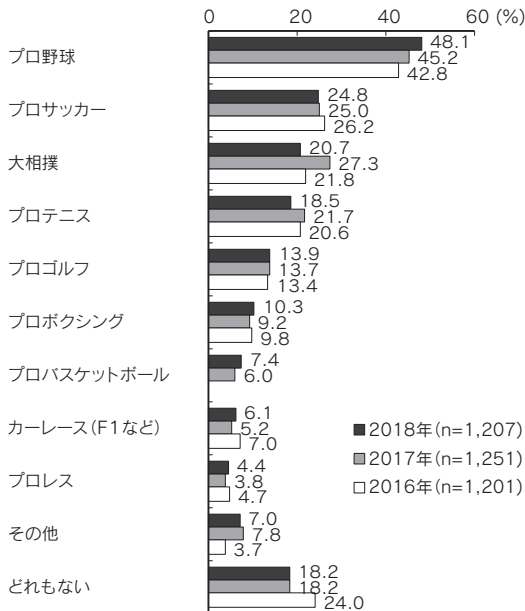
「人気スポーツ調査」では、1993年の第1回調

図表3 最も好きなスポーツ選手（歴代上位3位）

	1 位		2 位		3 位	
1994年 (n=995)	若ノ花	11.3%	長嶋茂雄	10.9%	三浦知良	6.6%
1995年 (n=949)	長嶋茂雄	15.5%	貴乃花	14.6%	若乃花	5.9%
1996年 (n=997)	イチロ	12.7%	野茂英雄	11.1%	長嶋茂雄	8.8%
1997年 (n=974)	長嶋茂雄	13.8%	イチロ	10.2%	貴乃花	6.5%
1998年 (n=969)	長嶋茂雄	12.2%	松井秀喜	6.9%	若乃花	6.0%
1999年 (n=994)	長嶋茂雄	10.7%	高橋由伸	8.8%	イチロ/松坂大輔	7.5%
2000年 (n=949)	長嶋茂雄	11.8%	松井秀喜	8.6%	貴乃花	5.0%
2001年 (n=1014)	イチロ	23.5%	松井秀喜	10.4%	長嶋茂雄	10.1%
2002年 (n=1073)	イチロ	23.0%	長嶋茂雄	8.7%	長嶋茂雄	8.3%
2003年 (n=1070)	松井秀喜	22.3%	イチロ	13.1%	長嶋茂雄	7.9%
2004年 (n=1007)	松井秀喜	18.6%	長嶋茂雄	8.9%	イチロ	8.5%
2005年 (n=959)	イチロ	21.2%	松井秀喜	16.3%	長嶋茂雄	7.2%
2006年 (n=912)	イチロ	24.6%	松井秀喜	13.7%	荒川静香	5.6%
2007年 (n=936)	イチロ	17.2%	松井秀喜	9.7%	長嶋茂雄	5.7%
2008年 (n=921)	イチロ	24.9%	松井秀喜	7.7%	長嶋茂雄	4.2%
2009年 (n=924)	イチロ	30.6%	石川遼	5.5%	長嶋茂雄	4.0%
2010年 (n=956)	イチロ	24.5%	浅田真央	12.1%	石川遼	9.6%
2011年 (n=899)	イチロ	19.5%	石川遼	17.1%	長友佑都	4.0%
2012年 (n=879)	イチロ	19.6%	石川遼	6.7%	ダルビッシュ有	5.9%
2013年 (n=866)	イチロ	21.5%	本田圭	5.8%	浅田真央	5.7%
2014年 (n=883)	浅田真央	15.7%	イチロ	15.1%	田中将大	8.7%
2015年 (n=911)	錦織圭	18.4%	イチロ	12.8%	浅田真央	7.7%
2016年 (n=857)	イチロ	22.4%	錦織圭	16.9%	浅田真央	5.1%
2017年 (n=918)	イチロ	16.9%	錦織圭	13.0%	浅田真央	7.5%
2018年 (n=898)	大谷翔平	21.7%	イチロ	11.1%	羽生結弦	11.0%

査以来、好きなプロスポーツについて聞いている。当初は「大相撲」「プロ野球」「プロサッカー」「プロゴルフ」「プロボクシング」「プロレス」の6つから好きなプロスポーツを選んでもらっていたが、1995年からは「カーレース（F1など）」も選択肢に含めている。さらに近年では、人気の高まりつつあった「プロテニス」を2014年から

図表4 好きなプロスポーツ



※プロバスケットボールは2017年から調査対象

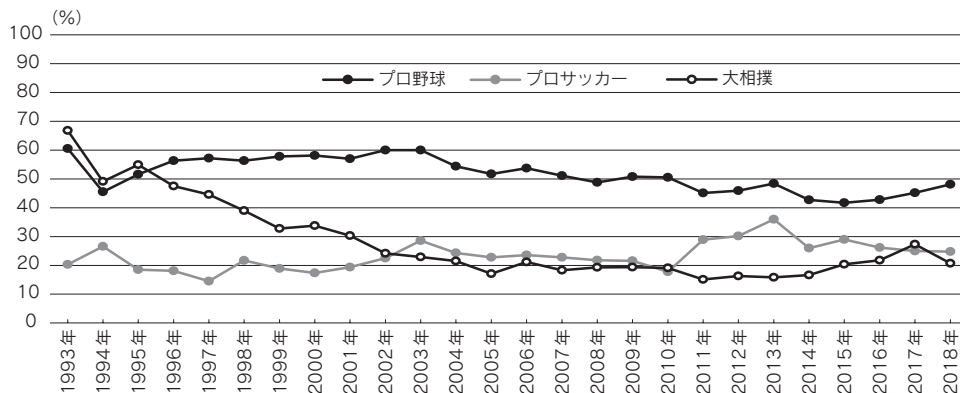
調査対象に加え、2017年にはBリーグの発足にともない「プロバスケットボール」を追加した。

結果は、1996年（第4回調査）から23年連続で「プロ野球」が1位となっている。続いて、今年「プロサッカー」が2位となった。昨年回復した「大相撲」の人気は、今年は一転下落して、再び3位となった。「プロテニス」の人気は、昨年よりやや減少したものの、今年も4位を維持している。昨年から調査対象とした「プロバスケットボール」は、今年も昨年と同じく「プロゴルフ」「プロボクシング」に次ぐ7位であったが、人気は昨年と比べてやや上昇している。（図表4）

これまでの調査結果を振り返ると、1995年の第3回調査までは「大相撲」の人气が「プロ野球」を上回り最も高かったが、その後は現在に至るまで一貫して「プロ野球」の人气が1位となっている。「プロ野球」の人气は、1990年代から2000年代初頭にかけては6割近くあったが、その後は緩やかに減少し、2010年代半ばには4割前半まで落ち込んだ。しかし、その人気は近年再び上昇傾向にある。（図表5）

一方、「大相撲」は、1990年代半ばの若・貴ブームの頃には「プロ野球」を凌ぐ人気があった。しかし、その後人気は下降して、2003年に貴乃花が引退して日本出身の横綱が不在となってからは2割程度に低迷していた。さらに、2011年に

図表5 好きなプロスポーツ(時系列)



図表6 好きな現役力士(上位10位)

今回(2018年)(n=1,207)			2017年(n=1,251)		2016年(n=1,201)		2015年(n=1,212)		2014年(n=1,233)	
1位	稀勢の里	18.1%	①	48.9%	②	19.1%	③	10.6%	④	8.7%
2位	遠藤 藤	13.7%	③	13.0%	④	9.4%	②	16.3%	②	22.3%
3位	白 鵬	13.5%	②	21.6%	①	25.8%	①	27.8%	①	33.1%
4位	高 安	7.5%	④	11.1%	⑪	1.7%	—	—	—	—
5位	豪 栄	4.6%	⑧	3.8%	⑥	4.1%	⑦	5.1%	⑥	3.6%
6位	鶴 竜	4.2%	⑪	2.2%	⑦	3.2%	⑩	2.6%	⑤	6.7%
7位	琴 奨	3.9%	⑤	6.9%	③	14.9%	⑧	4.1%	⑦	3.5%
8位	宇 良	3.7%	⑥	5.7%	⑭	0.9%	—	—	—	—
9位	御 嶽	3.0%	⑩	2.6%	⑨	2.2%	—	—	—	—
10位	栃 ノ	2.3%	—	—	—	—	—	—	—	—
1人も浮かばない		58.6%	37.9%		50.5%		49.9%		49.5%	

(注) —は16位以下、○数字は順位。

大相撲の八百長問題が発覚したことで、人気は15%程度にまで落ち込んだ。その後は徐々に回復して、昨年稀勢ノ里が日本出身力士として19年ぶりに横綱に昇進したことで、一時「大相撲」の人気は2002年の水準にまで戻ったが、そのような中で起こった横綱による暴行問題と人気力士の休場は、回復基調にあった「大相撲」の人気に再び水を差すこととなった。

「プロサッカー」については、2009年までは「プロサッカー（Jリーグ）」としていた選択肢の表記を、2010年以降は「プロサッカー」へと変更して質問している。そのため、2009年以前と2010年以後とでは結果を単純に比較することができない。2009年以前については、Jリーグの発足当初2割以上あった「プロサッカー（Jリーグ）」の人気は、その後一時期低迷を迎えたが、1998年のフランスワールドカップと2002年の日韓ワールドカップを経て人気は定着し、その後は2割台前半で推移していた。一方、2010年以後については、2010年の南アフリカワールドカップ後にはヨーロッパで活躍する日本人選手が増加したことで、「プロサッカー」の人気は一

時3割台後半まで上昇したが、その後は下落して、近年は2割台半ばで推移している。

3.好きな現役力士

質問：「あなたが好きな現役の力士を3人まであげてください。」(自由回答、複数回答)

「人気スポーツ調査」では、好きな現役力士についても1993年から継続してたずねている。

好きな現役力士を3人まであげてもらったところ、休場の続く横綱「稀勢の里」の人気が昨年よりも30ポイントあまり低下したにもかかわらず、昨年に続けて今年も1位となった。2008年から9年連続で人気力士ナンバー1であった横綱「白鵬」は、昨年の2位から順位を下げ、今年は3位となった。人気を維持した「遠藤」がかわって2位に浮上。春場所で優勝した横綱「鶴竜」の人気は昨年より上昇して6位となった。今年の初場所で初優勝を果たし関脇に昇進した「栃ノ心」（その後、夏場所でも優勝して大関昇進）が10位で、初めてランクインしている。(図表6)

一方で、6割近くは「1人も浮かばない」と答え

図表7 好きな現役力士（歴代上位3位）

	1 位		2 位		3 位		1人も 浮かばない
1993年 (n=1397)	若花田 (若乃花)	62.5%	貴ノ花 (貴乃花)	43.8%	舞 の 海	21.8%	15.5%
1994年 (n=1408)	若ノ花 (若乃花)	45.6%	貴ノ花 (貴乃花)	33.6%	智 ノ 花	22.9%	18.3%
1995年 (n=1398)	若 乃 花	45.3%	貴 乃 花	43.6%	舞 の 海	25.9%	18.5%
1996年 (n=1422)	貴 乃 花	37.4%	若 乃 花	36.6%	舞 の 海	29.3%	22.0%
1997年 (n=1362)	若 乃 花	43.0%	貴 乃 花	40.3%	舞 の 海	18.5%	20.8%
1998年 (n=1414)	若 乃 花	49.3%	貴 乃 花	35.1%	舞 の 海	21.4%	24.3%
1999年 (n=1447)	若 乃 花	34.5%	貴 乃 花	17.2%	千 代 大 海	15.1%	34.5%
2000年 (n=1428)	貴 乃 花	30.0%	寺 尾 尾	13.7%	武 双 山	12.6%	37.8%
2001年 (n=1434)	貴 乃 花	30.6%	魁 皇	19.7%	寺 尾 尾	19.2%	43.1%
2002年 (n=1471)	貴 乃 花	24.3%	栃 東	15.2%	魁 皇	11.8%	45.9%
2003年 (n=1446)	朝 青 龍	22.8%	千 代 大 海	19.2%	魁 皇	10.3%	51.9%
2004年 (n=1438)	朝 青 龍	17.5%	高 見 盛	15.6%	千 代 大 海	14.2%	53.1%
2005年 (n=1369)	高 見 盛	17.7%	魁 皇	17.5%	朝 青 龍	15.6%	53.9%
2006年 (n=1332)	琴 欧 州	16.4%	栃 東	16.4%	朝 青 龍	16.0%	50.2%
2007年 (n=1352)	朝 青	15.3%	高 見 盛	12.7%	千 代 大 海	11.5%	54.2%
2008年 (n=1261)	白 鵬	25.7%	琴 欧 洲	18.9%	高 見 盛	12.8%	45.7%
2009年 (n=1244)	白 鵬	26.7%	朝 青 龍	18.2%	高 見 盛	14.1%	45.7%
2010年 (n=1315)	白 鵬	31.2%	把 瑠 都	18.4%	魁 皇	16.9%	44.3%
2011年 (n=1269)	白 鵬	34.1%	魁 皇	23.1%	高 見 盛	9.1%	52.6%
2012年 (n=1272)	白 鵬	32.7%	稀 勢 の 里	12.6%	琴 奨 菊	8.6%	52.3%
2013年 (n=1204)	白 鵬	32.6%	稀 勢 の 里	15.0%	日 馬 富 士	7.9%	55.0%
2014年 (n=1233)	白 鵬	33.1%	遠 藤	22.3%	日 馬 富 士	9.1%	49.5%
2015年 (n=1212)	白 鵬	27.8%	遠 藤	16.3%	稀 勢 の 里	10.6%	49.9%
2016年 (n=1201)	白 鵬	25.8%	稀 勢 の 里	19.1%	琴 奨 菊	14.9%	50.5%
2017年 (n=1251)	稀 勢 の 里	48.9%	稀 白 鵬	21.6%	遠 藤	13.0%	37.9%
2018年 (n=1207)	稀 勢 の 里	18.1%	遠 藤	13.7%	白 鵬	13.5%	58.6%

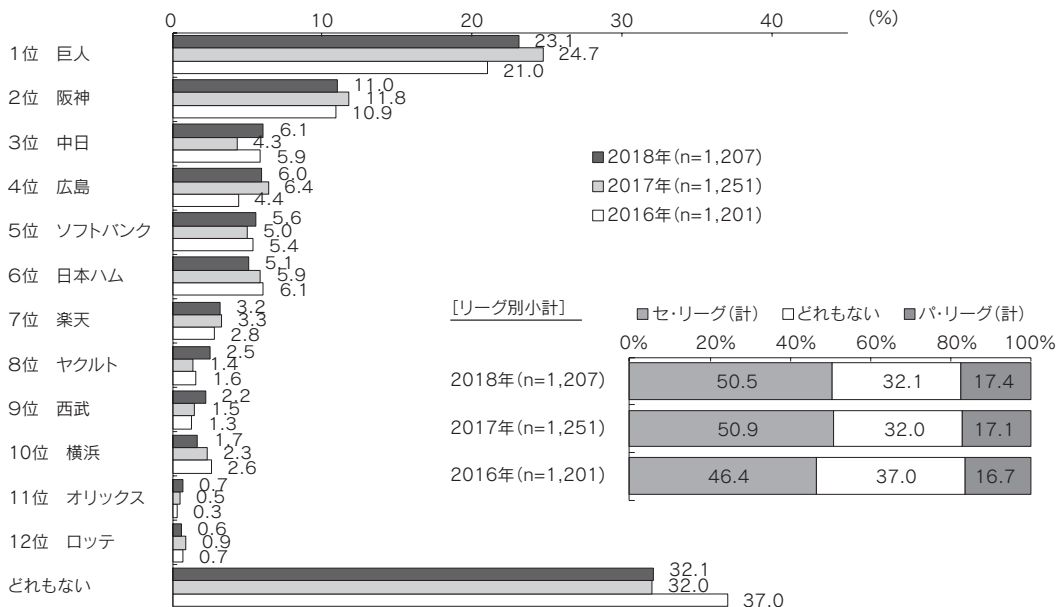
ており、その比率は昨年よりも20ポイント以上増加し、調査開始以来最高となっている。(図表7)

4. 一番好きなプロ野球チーム

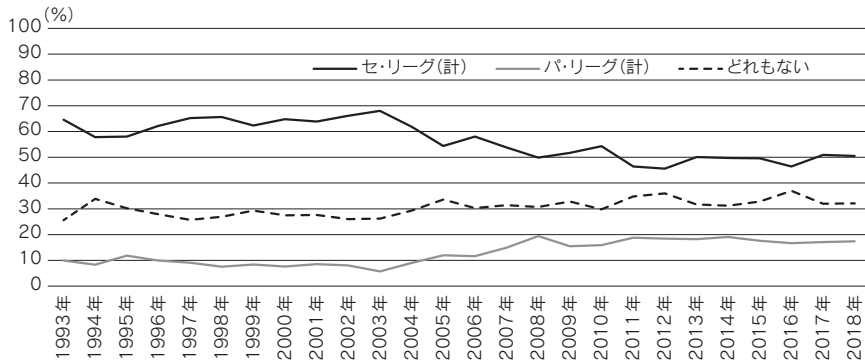
質問：「日本のプロ野球チームの中で、あなたが一番好きなチームはどこですか。」(自由回答)

好きなプロ野球チームも、第1回調査から継続して聞いている質問である。「巨人」の人气が最も高く、次いで「阪神」という構図は調査開始時から変わらず、今年も同様の結果となっている。3位以下のチームは年によって異なるが、今年、セ・リーグの「中日」が3位、「広島」が4位となった。パ・リーグでは、昨年日本一に

図表8 一番好きなプロ野球チーム



図表9 一番好きなプロ野球チーム(リーグ計・時系列)



輝いた「ソフトバンク」の5位が最高で、「日本ハム」が6位で続いている。(図表8)

リーグ別にみれば、各チームの人気を足し合わせた『セ・リーグ』の人気は50.5%、『パ・リーグ』の人気は17.4%となっている。

過去の結果を振り返ると、1990年代後半から2000年代初頭にかけては、『セ・リーグ』の人気は常に6割を超え、『パ・リーグ』の人気は1割を

切っていた。その後、2004年の「日本ハム」の北海道への本拠地移転、パ・リーグの再編による「東北楽天ゴールデンイーグルス」の誕生、2005年のセ・パ交流戦の導入などをきっかけとして、『パ・リーグ』の人気は上昇に転じる一方で、『セ・リーグ』の人気は下降することとなった。この10年間では、『セ・リーグ』の人気は5割前後、『パ・リーグ』の人気は1割台後半で推移している。(図表9)

図表10 一番好きなプロ野球チーム(時系列)

(%)

年	n	セ・リーグ							パ・リーグ							どれもない
		巨人	阪神	中日	広島	ヤクルト	横浜	(計)	ダイエー	日本ハム	近鉄	西武	オリックス	ロッテ	(計)	
1993年	(n=1,397)	37.1	12.4	5.7	3.1	4.8	1.4	64.6	1.9	0.0	1.4	6.2	0.1	0.4	9.9	25.6
1994年	(n=1,408)	32.0	9.9	4.5	3.1	7.1	1.1	57.8	1.4	0.4	0.9	4.8	0.5	0.3	8.3	33.9
1995年	(n=1,398)	36.5	9.0	5.2	3.4	2.9	1.0	58.0	4.1	0.1	1.4	5.3	0.8	0.2	11.8	30.2
1996年	(n=1,422)	37.3	7.5	6.3	4.1	5.6	1.3	62.2	2.4	0.2	0.3	2.5	4.1	0.5	9.9	27.9
1997年	(n=1,362)	38.8	10.6	5.2	4.0	5.1	1.5	65.2	2.1	0.3	0.6	2.1	4.0	0.0	9.1	25.7
1998年	(n=1,414)	39.3	9.2	5.8	3.9	5.9	1.4	65.6	2.1	0.4	0.3	2.0	2.5	0.2	7.5	26.9
1999年	(n=1,447)	37.7	10.6	5.3	3.4	2.4	2.8	62.3	2.4	0.3	0.4	3.3	1.7	0.3	8.4	29.3
2000年	(n=1,428)	38.9	10.9	5.7	3.8	2.6	2.9	64.8	2.4	0.4	0.6	2.6	1.3	0.4	7.6	27.5
2001年	(n=1,434)	40.2	9.1	7.3	3.1	2.2	2.0	63.9	4.5	0.1	0.4	2.4	0.5	0.6	8.5	27.6
2002年	(n=1,471)	36.6	18.0	5.4	2.4	2.4	1.2	66.1	4.1	0.1	0.2	2.8	0.3	0.5	8.0	26.0
2003年	(n=1,446)	38.9	16.1	4.9	3.3	2.8	2.0	68.0	3.3	0.1	0.3	1.5	0.3	0.3	5.7	26.2
2004年	(n=1,438)	33.0	16.0	5.4	3.5	2.3	1.6	61.8	4.7	1.0	0.6	2.2	0.2	0.3	9.0	29.3
年	n	巨人	阪神	中日	広島	ヤクルト	横浜	(計)	ソフトバンク	日本ハム	楽天	西武	オリックス	ロッテ	(計)	どれもない
2005年	(n=1,369)	28.3	13.4	6.1	2.5	2.9	1.2	54.4	4.6	2.3	2.3	1.5	0.2	1.2	12.0	33.6
2006年	(n=1,332)	31.3	14.3	5.5	2.5	3.2	1.2	58.0	5.5	1.7	1.2	1.5	0.7	1.1	11.6	30.3
2007年	(n=1,352)	27.4	13.5	6.8	2.7	1.4	2.0	53.8	7.0	2.9	2.5	1.6	0.2	0.7	14.9	31.4
2008年	(n=1,261)	22.4	15.8	7.1	2.2	1.3	1.0	49.9	5.1	4.5	6.7	1.6	0.5	1.0	19.4	30.7
2009年	(n=1,244)	26.4	12.7	5.4	3.5	1.7	2.0	51.7	4.3	3.5	4.5	1.8	0.5	1.0	15.5	32.8
2010年	(n=1,315)	28.7	13.8	5.9	2.5	1.3	2.2	54.3	5.1	3.7	3.7	1.8	0.3	1.4	15.9	29.8
2011年	(n=1,269)	21.4	12.6	5.0	3.2	2.5	1.7	46.4	5.2	5.8	3.8	2.1	0.6	1.4	18.8	34.8
2012年	(n=1,272)	23.0	11.0	5.3	3.5	1.3	1.5	45.6	6.4	4.7	3.4	2.8	0.3	0.9	18.4	36.0
2013年	(n=1,204)	26.2	12.9	4.2	3.7	1.6	1.5	50.1	5.9	5.4	4.1	1.3	0.2	1.3	18.2	31.7
2014年	(n=1,233)	25.5	11.4	5.9	3.8	1.8	1.4	49.7	5.5	4.6	6.2	1.5	0.3	0.9	19.1	31.2
2015年	(n=1,212)	24.7	11.0	5.3	4.7	1.2	2.7	49.6	6.3	5.4	2.9	1.3	0.6	1.2	17.6	32.8
2016年	(n=1,201)	21.0	10.9	5.9	4.4	1.6	2.6	46.4	5.4	6.1	2.8	1.3	0.3	0.7	16.7	37.0
2017年	(n=1,251)	24.7	11.8	4.3	6.4	1.4	2.3	50.9	5.0	5.9	3.3	1.5	0.5	0.9	17.1	32.0
2018年	(n=1,207)	23.1	11.0	6.1	6.0	2.5	1.7	50.5	5.6	5.1	3.2	2.2	0.7	0.6	17.4	32.1

『セ・リーグ』の人気低下は、2000年代初頭まで4割近くあった「巨人」の人気、近年は2割台前半にまで下がったことの影響が大きい。近年は両リーグを通して、地方にある球団の健闘が見られる一方で、首都圏に本拠地を置く球団の人気は伸び悩んでいる。(図表10)

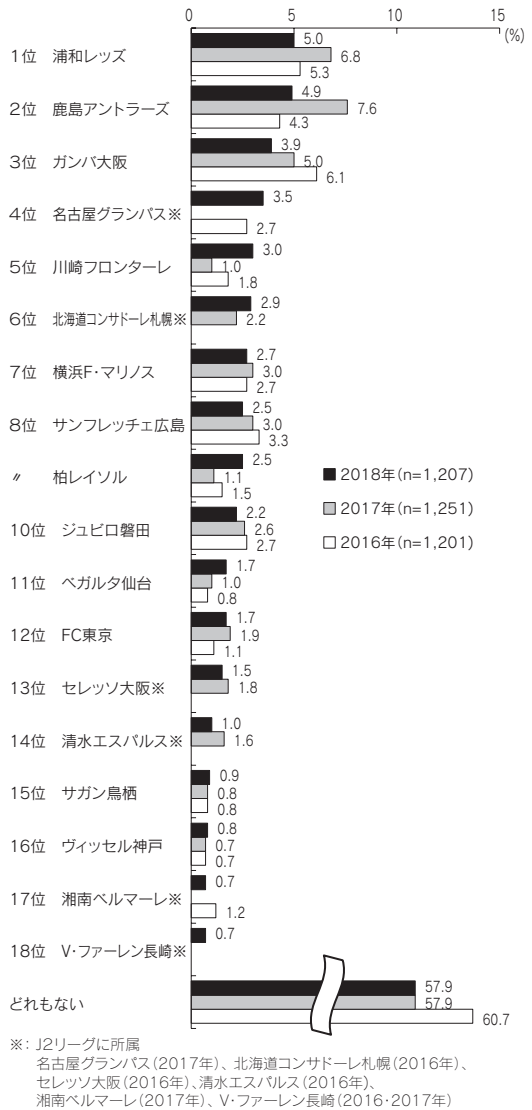
5. 一番好きなJ1のサッカーチーム

質問：「日本のプロサッカーリーグ（Jリーグ）のうち、現在のJ1で、あなたが一番好きなチームはどこですか。この中（回答票）から1つだけ選んでください。」

1番好きなJ1のサッカーチームについては、第12回調査(2004年)から質問している。Jリーグでは、プロ野球と異なり、突出して人気のあるチームが存在しないため、チームの成績がランキングに影響しやすい傾向がある。過去の結果を振り返ると、2004年と2005年にはジュビロ磐田の人气が1位であったが、2007年以降は、2012年に「名古屋グランパス」が1位タイになった以外は、「浦和レッズ」「鹿島アントラーズ」「ガンバ大阪」のいずれかのチームが年ごとに人気1位となっている。(図表11)

今年の結果は、「浦和レッズ」の人气が昨年よりやや低下したにもかかわらず、4年ぶりとなる1位となった。2位は、昨年1位だった「鹿島アントラーズ」。「ガンバ大阪」が3位で、今季J2からJ1に復帰した「名古屋グランパス」が4位。昨年J1初優勝を果たした「川崎フロンターレ」が5位で、人気もこれまでより上昇している。(図表12)

図表12 一番好きなJ1のサッカーチーム



図表11 一番好きなJ1のサッカーチーム (歴代上位3位)

	1 位		2 位		3 位		どれもなし
2004年 (n=1438)	ジュビロ磐田	6.3%	鹿島アントラーズ	4.1%	浦和レッズ	3.9%	66.2%
2005年 (n=1369)	ジュビロ磐田	6.0%	浦和レッズ	4.7%	鹿島アントラーズ	4.7%	65.4%
2006年	※2006年は該当質問なし						
2007年 (n=1352)	浦和レッズ	7.3%	ガンバ大阪	4.6%	名古屋グランパス	3.8%	63.3%
2008年 (n=1261)	浦和レッズ	6.2%	鹿島アントラーズ	5.1%	名古屋グランパス	3.8%	63.2%
2009年 (n=1244)	鹿島アントラーズ	5.7%	浦和レッズ	5.3%	ガンバ大阪	4.0%	66.9%
2010年 (n=1315)	鹿島アントラーズ	6.9%	ガンバ大阪	5.1%	名古屋グランパス	4.5%	64.3%
2011年 (n=1269)	ガンバ大阪	6.1%	鹿島アントラーズ	5.3%	浦和レッズ	4.9%	63.0%
2012年 (n=1272)	名古屋グランパス/ ガンバ大阪	4.4%			浦和レッズ	4.3%	62.4%
2013年 (n=1204)	浦和レッズ	6.3%	鹿島アントラーズ	4.0%	サンフレッチェ広島	3.5%	62.0%
2014年 (n=1233)	浦和レッズ	4.8%	鹿島アントラーズ	4.7%	横浜F・マリノス	4.2%	59.4%
2015年 (n=1212)	ガンバ大阪	7.2%	浦和レッズ	6.0%	鹿島アントラーズ	4.0%	58.7%
2016年 (n=1201)	ガンバ大阪	6.1%	浦和レッズ	5.3%	鹿島アントラーズ	4.3%	60.7%
2017年 (n=1251)	鹿島アントラーズ	7.6%	浦和レッズ	6.8%	ガンバ大阪	5.0%	57.9%
2018年 (n=1207)	浦和レッズ	5.0%	鹿島アントラーズ	4.9%	ガンバ大阪	3.9%	57.9%

6. 平昌冬季オリンピックで印象に残った競技と今後も注目したい競技

質問：(回答票)「平昌冬季オリンピックで最も印象に残っている競技はどれですか。」

質問：(回答票)「それでは、今後も注目したい競技はありましたか。」(複数回答)

今回の「人気スポーツ調査」では、毎年聞いている質問に加えて、今年2月に開催された平昌冬季オリンピックで最も印象に残っている競技と今後も注目したい競技についてもたずねた。2014年のソチ大会および2010年のバンクーバー大会後の調査でも、同様の質問をしている。

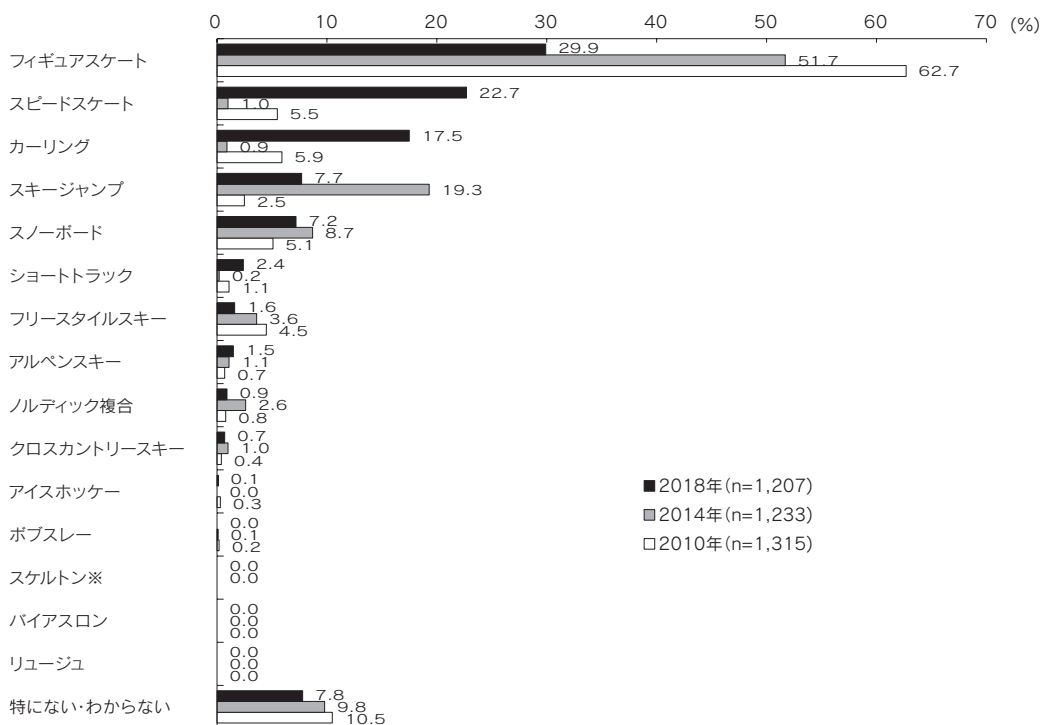
平昌冬季オリンピックで“最も印象に残っている競技”は、約3割が「フィギュアスケート」と回答して最も多かった。2位は「スピードスケート」で、「カーリング」が3位。以下、「スキージャンプ」、「スノーボード」の順となっている。日本選手がメダルを獲得した競技で回答が多くあげられている。(図表13)

“今後も注目したい競技”も、「フィギュアスケート」が4割以上で最多となっている。「カーリング」が2位で、「スピードスケート」が僅差の3位。以下、「スキージャンプ」、「スノーボード」と続いている。(図表14)

2010年のバンクーバーオリンピックや2014年のソチオリンピック後の調査では、“最も印象に残っている競技”“今後も注目したい競技”ともに、「フィギュアスケート」を答えた人が5割を超え、圧倒的多数だった。しかし、今回の平昌オリンピックでは、「スピードスケート」や「カーリング」などの回答も多く見られ、「フィギュアスケート」以外の競技にも注目が集まったことを示している。

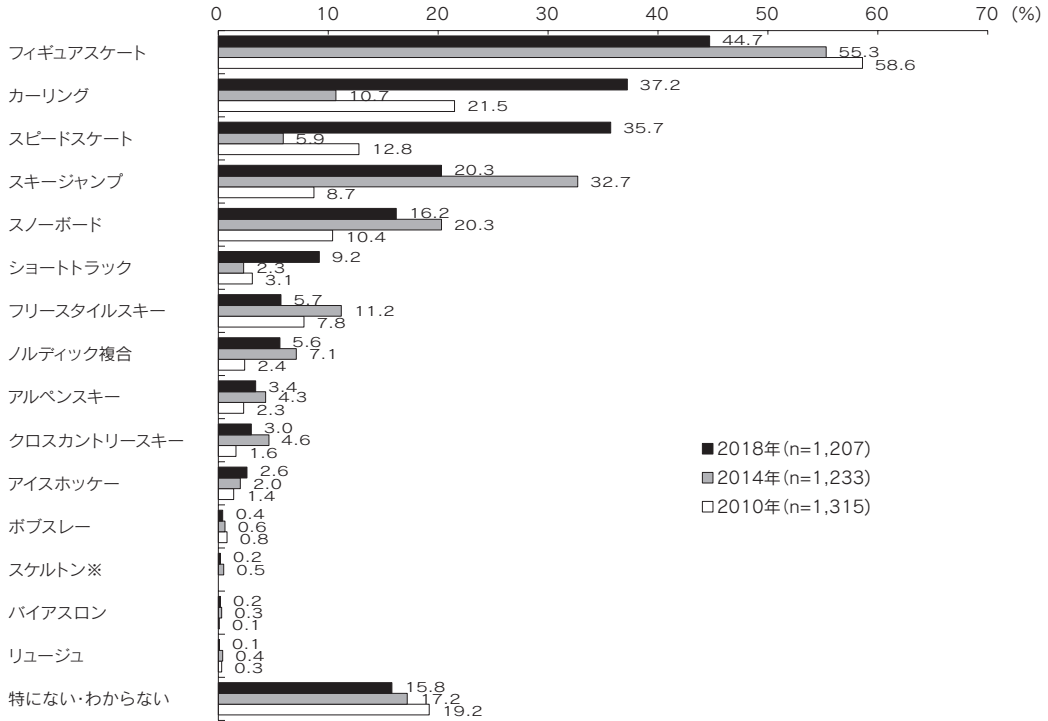
男女別にみると、“最も印象に残っている競技”と“今後も注目したい競技”のいずれもで、女性では今回も「フィギュアスケート」との回答が圧倒的に多かったのに対して、男性では「スピードスケート」が最も多く、以下、「カーリング」、「フィギュアスケート」の順であった。(図表15、図表16)

図表13 冬季オリンピックで最も印象に残っている競技



※:「スケルトン」は2014年(ソチ大会)から調査対象に追加

図表14 今後も注目したい競技



※:「スケルトン」は2014年(ソチ大会)から調査対象に追加

図表15 平昌冬季オリンピックで最も印象に残った競技(男女別、上位10位)

男性 (n=583)		女性 (n=624)	
1位	スピードスケート 28.0%	1位	フィギュアスケート 44.2%
2位	カーリング 20.4%	2位	スピードスケート 17.8%
3位	フィギュアスケート 14.6%	3位	カーリング 14.7%
4位	スキージャンプ 9.6%	4位	スノーボード 7.9%
5位	スノーボード 6.5%	5位	スキージャンプ 5.9%
6位	アルペンスキー 2.6%	6位	ショートトラック 2.4%
7位	ショートトラック 2.4%	7位	フリースタイルスキー 1.0%
8位	フリースタイルスキー 2.2%	8位	クロスカントリースキー 0.8%
9位	ノルディック複合 1.5%	9位	アルペンスキー 0.5%
10位	クロスカントリースキー 0.7%	10位	ノルディック複合 0.3%

図表16 今後も注目したい競技(男女別、上位10位)

男性 (n=583)		女性 (n=624)	
1位	スピードスケート 40.1%	1位	フィギュアスケート 60.7%
2位	カーリング 36.7%	2位	カーリング 37.7%
3位	フィギュアスケート 27.6%	3位	スピードスケート 31.6%
4位	スキージャンプ 23.8%	4位	スキージャンプ 17.0%
5位	スノーボード 15.4%	5位	スノーボード 16.8%
6位	ショートトラック 8.2%	6位	ショートトラック 10.1%
7位	ノルディック複合 7.0%	7位	フリースタイルスキー 5.1%
8位	フリースタイルスキー 6.3%	8位	ノルディック複合 4.3%
9位	アルペンスキー 5.3%	9位	クロスカントリースキー 3.0%
10位	アイスホッケー 4.5%	10位	アルペンスキー 1.6%

(調査の設計・方法など)-----

[第1回(1993年)～第14回(2006年)]

- 調査地域: 全国
- 調査対象: 20歳以上の男女個人
- 標本数 : 2,000
- 抽出方法: 層化二段無作為抽出法 (住民基本台帳)
- 調査方法: 調査員による個別面接聴取法
- 調査時期: 毎年4月～5月の4日間
- 有効回収数: 1,300～1,400程度

[第15回(2007年)～第26回(2018年)]

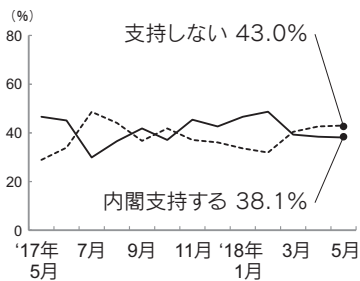
- 調査地域: 全国
- 調査対象: 20歳以上の男女個人
- 標本数 : 4,000
- 抽出方法: 層化三段無作為抽出法 (電子住宅地図)
- 調査方法: 調査員による個別面接聴取法
- 調査時期: 毎年4月～7月の10日間前後
- 有効回収数: 1,200～1,300程度

◇ 告知 板

5月の時事世論調査

5月の時事世論調査によると、安倍内閣の支持率は前月比0.3ポイント減の38.1%、不支持率は0.4ポイント増の43.0%で、ともにほぼ横ばいだった。

調査は全国の18歳以上の男女2,000人を対象に、個別面接聴取法で5月11日から14日に実施。有効回収(率)は1,273(63.7%)。



この時期の国内の動きは、

農水省に加計文書：学校法人・加計学園の愛媛県今治市への獣医学部新設計画をめぐる、当時の首相秘書官が愛媛県職員らと面会時に「首相案件」などと述べたと記されている文書が農林水産省で見つかった(4月12日)。

日本の総人口7年連続減少：総務省が公表した2017年10月1日時点の人口推計によると、外国人を含む総人口は1億2670万6千人で、前年から22万7千人減った(4月13日)。

財務次官が辞職：女性記者へのセクハラ疑惑が報じられた財務省の福田事務次官が、麻生財務相に辞職を申し出て受理された(4月18日)。

250年ぶり硫黄山噴火：宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島連山の硫黄山が噴火し、噴火警戒レベルは3(入山規制)に引き上げられた(4月19日)。

安倍首相訪米：米朝首脳会談に向けて、トランプ大統領と首脳会談を行うためフロリダ州を訪問。北朝鮮の非核化を協議し、拉致問題解決へ協力を求めた(4月17日～20日)。

大川小裁判、2審も賠償命令：東日本大震災で犠牲になった宮

城県石巻市の大川小学校の児童の遺族が起こした裁判で、控訴審の仙台高裁は震災前の防災対策不備を認め、市と県に対し1審より多い14億3000万円余りの賠償を命じた(4月26日)。

潜伏キリシタン、世界遺産へ：「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」(長崎、熊本)について、ユネスコの諮問機関が世界文化遺産に登録するよう勧告した(5月3日)。

国民民主党、62人で発足：民進党と希望の党の所属議員が新党「国民民主党」の設立大会を開き、暫定的な共同代表として、民進の大塚代表と希望の玉木代表を選任した(5月7日)。

東京で日中韓首脳会談：安倍首相、中国の李克強首相、韓国の文在寅大統領の3カ国首脳は会談後、北朝鮮の完全非核化へ向けた共同宣言を発表。拉致問題解決についても明記された(5月9日)。

国外では、

米英仏、シリアに軍事攻撃：トランプ米大統領は、シリアのアサド政権が化学兵器を使用したと断定し、化学兵器関連施設への攻撃を命じたと発表(4月13日)。

北朝鮮が核実験場廃棄を決定：北朝鮮の朝鮮労働党中央委員会総会は、核実験と大陸間弾道ミサイルの試験発射を中止し、北部の核実験場を廃棄することを決定した(4月20日)。

アフガンでテロ、63人死亡：アフガニスタンの有権者登録施設付近で、選挙妨害が狙いとみられる自爆テロが発生。首都カブールや北部バグラン州で少なくとも計63人が死亡(4月22日)。

南北首脳会談：板門店の南北軍事境界線を越えて韓国入りした北朝鮮の金正恩朝鮮労働党委員長は、韓国の文在寅大統領と初対面した。両氏は、朝鮮半島の完全な非核化実現を目標に掲げた共同宣言に署名(4月27日)。

中朝首脳再会談：金正恩委員長が中国・大連を訪れ、3月に続

き習近平国家主席と会談した(5月7日～8日)。

米がイラン核合意離脱表明：トランプ米大統領は、2015年に米英仏独中6カ国とイランが結んだ核合意から離脱し、対イラン制裁を再開すると発表した(5月8日)。

マハティールの野党勝利：マレーシア総選挙はかつてない大接戦となり、マハティール元首相率いる野党連合(希望同盟)がナジブ首相率いる与党連合(国民戦線)を破り、1957年以来61年ぶりの政権交代を果たした(5月9日)。

政党支持率 自民党は前月比1.5ポイント増の26.8%だった。立憲民主党は0.1ポイント減の5.0%、公明党は0.5ポイント増の4.4%、共産党は0.7ポイント減の1.7%。結党直後の国民民主党は、0.6%だった。支持政党なしは57.7%で前月より0.6ポイント減。

政党支持率 (上段：5月、下段：4月)

自 立 国 公 共 日 自 希 社 支	立 憲 民 主 党	公 明 党	共 産 党	民 進 党	立 憲 民 主 党	公 明 党	共 産 党	民 進 党	立 憲 民 主 党	公 明 党	共 産 党	民 進 党	支 持 政 党 な し					
26.8	5.0	0.6	1.7	0.7	0.2	0.2	0.4	57.7	25.3	5.1	3.9	2.4	1.0	-	0.4	0.7	-	58.3

国民の景気感 「良くなった」は前月より0.9ポイント増の9.2%、「悪くなった」は3.9ポイント減で16.0%。時事世論景気指数は前月よりも8ポイント上昇して139となった。

時事世論景気指数

2010年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
96.8	84.1	97.2	143.8	129.1	126.0	120.0	131.9
17年(4月)	130	130	128	128	132	124	136
17年(11月)	138	136	134	133	129	131	139

暮らし向き 昨年の今頃と比べて「楽になった」は前月比0.3ポイント増の5.6%、「苦しくなった」は1.6ポイント減の18.7%だった。